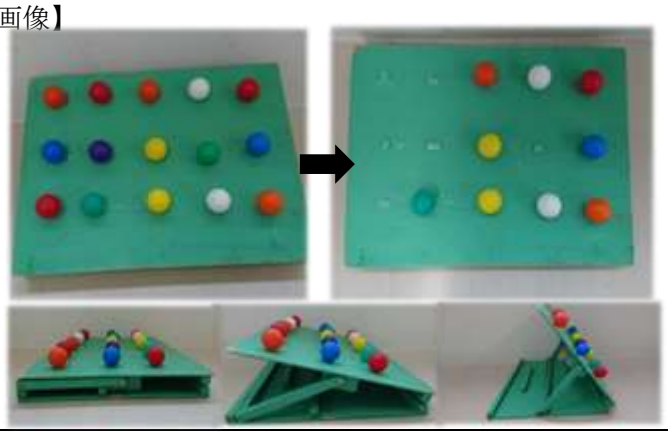
教材・支援機器活用実践事例
【目と手の協応動作や身体のバランス力を高める自立活動】

	実施年度	平成２８年度
授業について	教科名等	自立活動
	単元・題材名	からだをつかって遊ぼう　～ボールで遊ぼう～
	授業における 教師のねらい	・ボールの位置の把握や、ボールを手に取ったり投げたりする活動を通して、視覚的な情報の活用や目と手の協応動作の獲得を促す。 ・身体を動かしながら遊ぶことで支え立ちや膝立ちなどの体幹を強化し、バランス力を向上させる。
	授業における 子どもの目標	・ボールの位置を目で見て把握し、手を伸ばしたり、転がるボールを目で追ったりすることができる。 ・遊びに応じて様々な姿勢（座位や膝立ち、支え立ちなど）になることができる。 ・遊びたいものの場所まで支え歩きや膝立ち歩きで移動することができる。
子どもについて	学校・学級・学年	県立養護学校　小学部　重複障がい学級　１学年
	対象の障がい	病弱、肢体不自由、知的障がい
	授業形態	個別学習
学習上又は生活上の困難さ	子どもの特性や 教育的ニーズ	乳児期からの入院生活により、普段の生活範囲がベッドの中の限られた空間である。遠くの物を見たり自分から近づいて触れに行ったりする機会は少なく、手探りになる、動く物を触る際に距離感がつかめないなど、視覚的な情報の活用や目と手の協応動作についての経験が不足している。ボールを投げたり転がしたりする活動を好み、ボールのある場所まで支え歩行や膝立ち歩きで移動するなどして自ら活動に取り組もうとする姿が見られる。
教材・支援機器活用	使用した支援機器・教材の名称	「ボールで遊ぼう」 ・図画版 ・養生テープ ・プラスチックボール 【画像】 
	活用のねらい	・間隔を空けてボールを配置することにより、よく見て１つのボールに向かって手を伸ばす動作を引き出すことができるようにする。
授業における支援 ・教材の配慮事項		・板の角度を変えたり台の上に置いたりするなど、提示の仕方を変えることで、児童自身が考えながら目線の高さや姿勢（座位や膝立ちなど）を工夫していけるようにする。 ・板の上からボールがなくなっていくことで「この遊びはおしまい。」という状況をわかりやすくし、次の遊びへと切り替えるきっかけをもてるようにする。
子どもの変容や評価		・ボールを手に取る際、視線を向けながらボールに真っすぐ手を伸ばす動作が確立した。また、ボールの残りが少なくなった際に、手探りでボールを探す様子が少なくなり、四隅のボールを見逃すこともほとんどなくなった。 ・膝立ちのままボールを手に取ったり投げたりするなど、身体のバランスを保持しながら活動できる時間が長くなった。 ・板の上からボールがなくなると、次の遊びを探すために自分から周囲を見渡したり、教師の言葉掛けを受けて顔や身体を向けたりすることができた。